

エコニュース さって



第 62 号
平成 27 年 11 月 27 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

「浮きウキフェスタ27」 浮島つくりに140名が参加

報告：久保田

10月24日（土）快晴の天気のもと、権現堂1号公園多目的運動広場にて「行幸湖浮きウキフェスタ27」が開催されました。「水辺の再生」をコンセプトに開かれるこのイベント、今年で7年目を迎え、テントを使って出展した企業・団体は15ブース、桜高校演劇部によるチンドンパレード、さっちゃん・ごかりん・コバトン・たらこキューピー・ヤクルトくんのゆるキャラパフォーマンス、グラスホッパーによるバンド演奏、浮島つくり体験、カヌー・ドラゴンボート体験など、ほぼ例年と同じ定着した内容でイベントがおこなわれました。主催者の発表によりますと、来場者は約2300名で、これは昨年と同じとのこと。

さちネットとごか・川の会、NPOとよあしはらで協働で開催しました「浮島つくり」には、141名の参加があり（うち子どもの参加は65名）、4基の浮島を製作しました。さちネットのメンバーは、浮島つくりの作り方をサポートするスタッフとして参加しましたが、今回の経験からつぎのような反省点が出ました。炭袋つくりの最終段階の袋のとじ方の方法が参加者に伝わっていなかった（マニュアルがなかった）。また、綴じるひもを通す「針」もなかったため、スムーズな袋作りができなかった。竹と丸太を固定するロープの結び方が、よくできてなかった（マニュアルはあったが）。こうしたことから次回には、各班のリーダーやサブリーダーに事前に集まってもらい、製作ポイントを周知してもらうようにすることが必要である。また、袋をとじるための道具「針」も用意する必要がある、などの改善点が指摘されました。

「浮島つくり」だけを取り上げれば、さちネットの経験は10年を数えます。その経験から内部で蓄積されたノウハウを、経験のない（何度か経験していても年に一度のため、忘れてしまった）参加者にうまく伝える方法を、すこし工夫せねばと考えています。



真剣に浮島つくり



完成した浮島に乗ってゆるキャラと記念写真

「エコライフDAY2015（夏）」取組結果報告 参加者数6,835人は前年を大幅に上回る

報告：高久

平成27年度の「エコライフDAY2015」運動は、5月18日（月）市役所にて市長ご出席のもと宣言式が行われスタートしました。

「エコライフDAY」運動は平成17年に始まり、埼玉県では電気を始めエネルギー使用量の多い夏と冬の2回行われていますが、幸手市では夏のみ参加しています。今年は7月5日（日）～12日（日）に実施されました。以下取組結果について報告します。

本年は、昨年と比較して参加者数が6,835人（115.2%）903人増加することができました。また、二酸化炭素削減量も5,210kg（129.6%）で1,190kgも大幅に増加しています。特に、児童、生徒数の減少傾向にある中で、小学低・高学年、中学・高校共に参加率を上げることができました。また、各種団体の参加数も大きく貢献してくれました。心からお礼申し上げます。

エコライフDAYは、チェックシートを用いて一般家庭において二酸化炭素排出量削減を目指し、省エネ・省資源の生活を1日体験する取り組みです。地球温暖化が叫ばれている中で、二酸化炭素排出量の増加要因は、特に家庭での排出量増加が起因していると言われております。この運動を通じて日常生活において、1人ひとりが何気なく過ごしている中でも、心がけ次第で二酸化炭素排出量は削減することができます。

<エコライフDAYチェックシート取組の特徴>

身近な生活の中で取組める項目を年齢に応じ10～20項目設定し、それぞれの項目でどれだけ二酸化炭素が削減できるか、試算値を示しています。それを日常生活の中で継続することが大切です。

項目例	
(1)	部屋を出るときは明りを消した（38g）
(2)	お湯や水を流しっぱなしにしないで、こまめにとめた（82g）
(3)	買い物するとき、レジ袋をもらわずマイバックを使った（56g）
(4)	出かけるときは自動車に乗らずに、徒歩、自転車、バス、電車を利用した。（309g）

<参加者数及び二酸化炭素削減量の推移> (2015年7月1日の幸手市人口52,905人)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
参加者数（人）	7,725	7,140	6,499	5,932	6,835
（対人口比参加率）	（14.4%）	（13.4%）	（12.1%）	（11.1%）	（12.9%）
二酸化炭素削減量（g）	4,834,411	4,417,326	4,468,226	4,020,849	*5,210,298

* ブナの木約173,676本が1日に吸収する量に相当

ブナの木1本の1日当りの二酸化炭素吸収量は約30gです。

冬の省エネ対策は、ご存知ですか？ 冬の暖房は、夏の冷房の約6倍のエレルギーを使います。冬、部屋から外に逃げていく熱は、その半分が「窓」からなんです。

対策 ①カーテン・障子・雨戸を閉める。

②窓に、断熱シートやプチプチを貼る。

③カーテンを断熱性の高いものにする。

④サーキュレーターや扇風機で空気を循環させる。

⑤窓を断熱性の高いものにエコリフォームする。（ペアガラスに交換、窓全部を交換、内窓をつける）

地域丸ごとアミューズメント2015 「中川ウオーク」結果

報告：澤村

9月21日、埼玉健康と暮らしを支える市民勉強会主催への協力で、さって市民環境ネットとYAMADA家による「中川ウオーク」が、一般参加者11名、スタッフ6名、YAMADA家と主催者2名、及び樹木・野草の講師にNPO法人「とよあしはら」の山本裕隆氏と野鳥の講師に埼玉県生態系保護協会の青柳進氏を迎えて行われました。冒頭、主催者の音頭とりで参加者が怪我をしないようにと準備運動に豆腐音頭体操を行ってから、東公民館を後に、河川敷の野草・屋敷林と川岸を眺めながら、途中、樹木や野草の特徴の説明を受け、中川を下って天満宮、YAMADA家を目指しました。ただ、下見で初めて知ったのですが、残念ですが昔はなかった外来種の背の高いオオブタクサ（注）が両岸に群落・繁茂していたために野鳥が見え難く、また先の豪雨で水かさがましていたために野鳥が少なかったようでした。しかし、吉田橋からはモズを、高平橋からは普段中々見ることのできないカワセミを見ることができたのが満足でした。他にカイツブリ、カルガモ、イソシギなどが見えました。YAMADA家に到着した時は山羊が迎えてくれ、皆さん山羊に挨拶をして庭に入りました。

YAMADA家では、スタッフの2人が先に行き、地元の野菜を使って豚汁を作っていました。到着後、主催者から「地域丸ごとアミューズメント」の主旨説明とYAMADA家の山田氏からの挨拶があった後、各自持参した弁当を食べながら豚汁を食しました。参加者全員から豚汁が大変美味しかったとの大好評で、お代りする人が多数いました。

食事後、青柳講師から配布した「野鳥写真と鳥合せリスト」を見ながら、今回観察できた鳥8種を確認しました。今回は、短時間のウオークであったためと、この時期と茂った樹木や野草のために見られる鳥の数は少なかったと言われていましたが、それでも今の時期なら50～60種はいるとのことでした。

また、山本講師からは、配布した「屋敷林ミニ知識」について詳しい説明があり、屋敷林が生垣と防風林の働きをし、更にビオトープ（生物群集の生物空間）というと水辺だけと思っていたのですが、屋敷林もビオトープ空間をつくっていると初めて聞き認識しました。最近、生物多様性から里山という言葉が使われるようになりましたが、里山は愛知万博で自然と人が共生する循環型の生活空間として注目されたとのことでした。丁度、YAMADA家の前の家が旧家らしく、大きな屋敷林があり、大きなケヤキ、エノキ（鳥が植えた）、スギなどがあり、よい教材となりました。両講師の説明後、司会進行役が予定時間をオーバーし途中で止める程の活発な質疑応答があり、大変有意義な勉強会「中川ウオーク」となりました。

YAMADA家にお礼の挨拶と山羊に別れを告げて東公民館に戻りました。当日は、彼岸中で空気は乾燥していましたが、日照りが強く全員が気持ち良い汗をかきました。

最後に、さって市民環境ネットから「中川ウオーク」参加のお礼と会員募集を案内して締めました。

なお、YAMADA家には勉強会のまとめ、昼食、豚汁づくりなどで庭を借りる都合上、前日に訪問して準備させて頂きました。

（注）ブタクサの一種で、キク科ブタクサ属の一年草。雌雄同株の風媒花。葉の形からクワモドキとも呼ばれる。北アメリカ原産の帰化植物で、日本全国に分布している。河川敷や荒地などに大群落をつくっている。日本への侵入経路としては、アメリカから輸入した大豆に付着したオオブタクサの種子が、豆腐屋などで廃棄され発芽したものといわれている。同じ属の帰化植物であるブタクサとともに花粉症の原因として知られ、日本国内ではスギ、ヒノキに次ぐ患者数が存在するとされる。（インターネットHP抜粋）



豚汁美味しかった！（YAMADA 家にて）

第129回腐葉土と野菜づくりの会

報告：澤村（以降、同じ）

7月19日（日）、朝から晴で猛暑、出席者18名。

今回の作業：エダ（奥）マメ苗植え、熟成腐葉土の頒布、草取り。

19日は海の日で、数日前から雨が降らず、8時開始でしたが、早朝から30度を超え、暑くて汗びっしょりの作業でした。有志で10日前の7月9日に昨年収穫した種マメを播き、鳥に食べられないようにネットを被せて水遣りし、そして芽が出るまで数日間水遣りをしました。幸い、途中雨も降って順調に育苗できました。作業は、熟成腐葉土の袋詰めとエダマメ苗植えの2グループに分かれて、後でエダマメ苗植えに合流しました。地主が既に耕してくれた畑で、畝縄を張って幅幅約80cmで畝をつくり、マメ苗2本ずつを30cm間隔で植えました。

第130回腐葉土と野菜づくりの会

8月9日（日）臨時開催。晴で猛暑、出席者13名。

今回の作業：午後5時から草取り。

猛暑が続いたので、開始時間を夕方開始とし、サツマイモ（葉やつるが草で見えない状態で、草と日照りで3分の1程枯れてしまいました）とエダマメの畑の草取りを行いました。

8月23日（日）8時開始、うす曇り、出席者16名。

今回の作業：熟成腐葉土の頒布、畑へのダイコンの種まきを前に草取り実施。その後に熟成腐葉土、鶏ふんと化成肥料（チッソ：リン：カリ＝14：14：14）（少量、元肥え）を散布。

比較的涼しい日でしたが、畑の草が繁茂していて茎が太く根が張っていて、草取りが力作業となり、取った草が大きな山となりました。それでも全部の草は取りきれず、取敢えずダイコンの種を播くところだけとしました。時間の合間を見てサツマイモのつる返しを行いました。

【会員募集中！】環境保全活動を一緒にやっていただく方を募集しております。是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕 ★問い合わせ 澤村 邦夫（代表）まで TEL 0480-42-3384

幸手の環境活動グループ：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会（いきがい大学伊奈学園20期）